

世帯と人口

(平成4年9月1日)  
世帯 37,234 (+24)  
人口 109,346人(+66)  
男 56,428人 女 52,918人

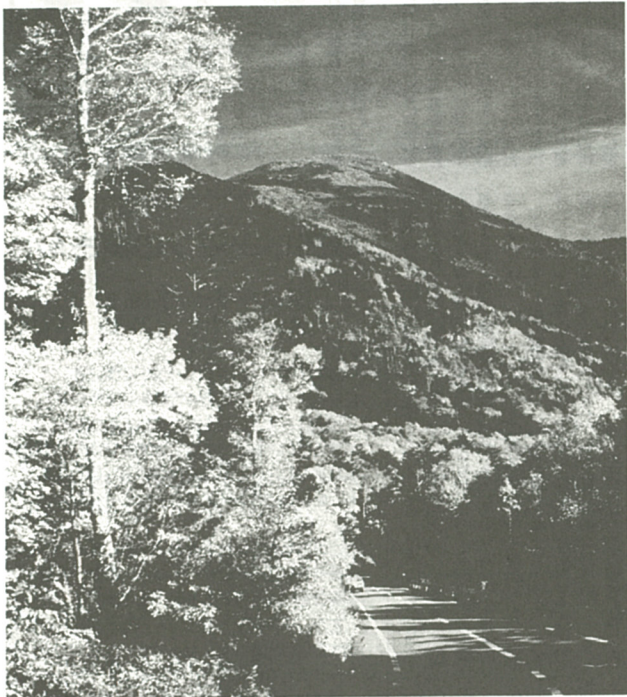
# 広報 えびな

編集・発行  
海老名市役所広報広聴課  
〒243-04  
神奈川県海老名市勝瀬175  
☎ (0462) 31・2111

## 高・原・に・市・民・憩・い・の・場

# えびな蓼科荘

# 12月25日から使用開始



△春は新緑、秋は紅葉が美しい蓼科山



△近くには白樺高原国際スキー場があります

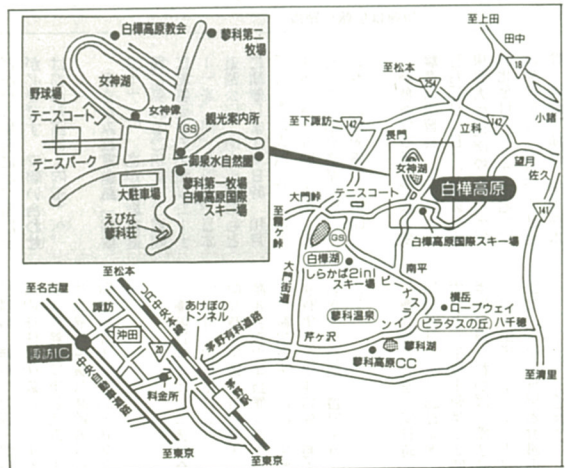


△開館間近の「えびな蓼科荘」

### 四季を通じて自然が楽しめます

市民休暇施設「えびな蓼科荘」が十二月二十五日から長野県立科(なてしな)町にオープンします。市民休暇施設とは、文字どおり市民のみならず豊かな自然の中で余暇を楽しみ、互いに交流を深めることを目的とした施設です。近年、余暇の増加に伴い、こうした施設を望む声が高まったため、市では去年「市民休暇施設設置検討委員会」を充足させ、調査・検討を重ねてきましたが、その結果、所沢市が所有していた同施設を譲り受けて一部改修を行い、市民のみならず利用していた六十二人の宿泊が可能で、周辺には白樺湖や霧ヶ峰高原などがあり、四季を通じて各種レジャーやスポーツが楽しめます。ぜひ、ご家族でお出かけください。

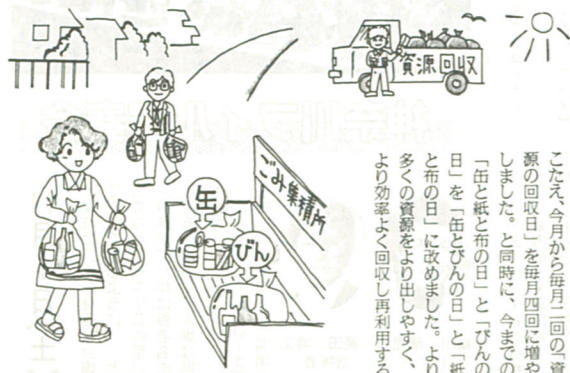
市民休暇施設は、去年実施した市民意識調査の中でも多くの人が望んでいた施設でした。そのため市では、学識経験者十八人による「市民休暇施設設置検討委員会(丸毛信太郎委員長)」を同年十一月に設置し、現地視察を含めた調査・審議を重ねてきました。同委員会から、長野県立科町にある所沢市の施設を譲り受けることが望ましい、という答申を受けた市では、施設の改装などについて検討を行い、設置することになりました。



「えびな蓼科荘」は、長野県立科町に位置し、白樺高原国際スキー場の近くにあります。立科町は、長野県諏訪市の北東にある町で南北に二十六キロ、東西は狭いところで五十キロから広いところで七十キロと細長く、周りを山々に囲まれた高原の町です。開設する施設は、敷地面積一万五千五百一十一・五三平方メートル、鉄筋コンクリート造り二階建て、十六室で六十二人が宿泊できます。同施設の近くには、女神湖、蓼科牧場、白樺湖、霧ヶ峰高原などがあり、春は新緑の山々、夏は高原に咲き乱れるニッコウキスゲ、秋は紅葉、リンゴ狩り、冬はスキー・スケートと四季を通じて楽しむことができます。なお、同施設の利用希望者の受け付けは、十月十五日から行います。(詳しくは、4、5面に掲載)



缶とびんは別々の袋に入れて  
缶はごみ集積所の左側、びんは右側へ



### 変わります資源の出し方

#### 今月1日から回収日が月4回に

市では、みなさんの要望にこたえ、今月から毎月3回の資源の回収日を毎月4回に増やしました。同時に、今までの「缶とびんの日」と「びんの日」を「缶とびんの日」と「紙と布の日」に改めました。より多くの資源をより出しやすく、より効果よく回収し再利用する

ため、資源の回収日には次のルールを守ってくださるようお願いいたします。

**缶とびんは別々に**  
今月から缶とびんは別々の回収日になりましたので、中を空にして水洗いした後、必ず缶は缶だけ、びんはびんだけの袋に分けて、ごみ集積所に出してください。

**缶は左側、びんは右側へ**  
缶とびんを別々の集積所に出すときは、回収効率を高めるため缶はごみ集積所の左側、びんはごみ集積所の右側へ分けて置くようお願いいたします。

**紙類は種類別にまとめて**  
新聞、雑誌、ダンボールなどは種類ごとにまとめて、ひとりでしっかり束ねてください。新聞紙に入っている広告も新聞紙と

りませんで、宿泊当日現地でお支払いいただきます。食料金は1泊につき一人(夕・朝)食2食(二千円)です。なお、特別料理もありますので申し込みの際にお申し付けください。

きませんで、また資源の回収日に資源以外のものは出さないでください。

**一般ごみの場合は**  
一般ごみを出すときは、ごみを入れた袋の口をしっかりはつていただき、破棄は「燃えないごみの日」に透明なビニール袋に入れて、他のごみとは別にしてください。

**時間と出すものは守って**  
資源は、一般ごみと同様に回収日の午前八時までにごみ集積所に出してください。それ以後の時間に出されても回収はできません。



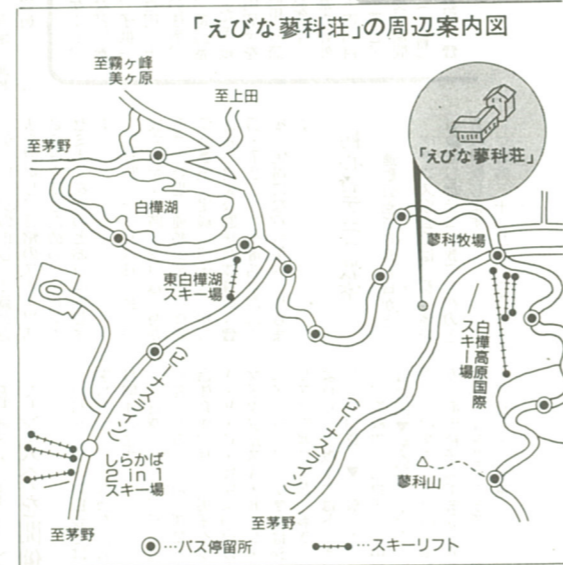
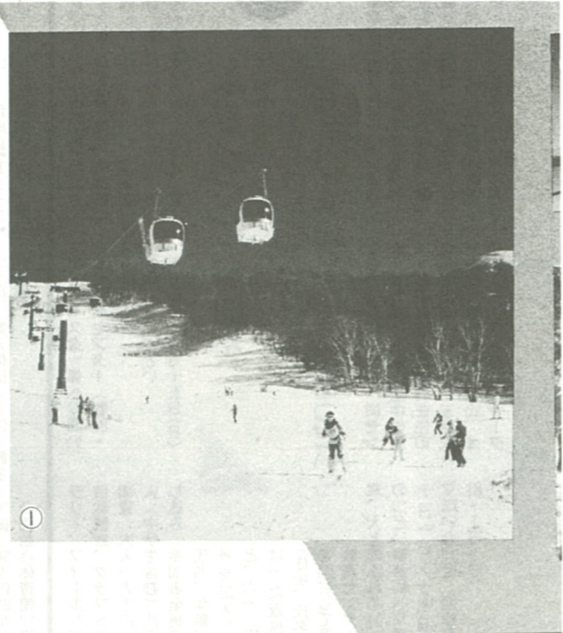
新聞、雑誌、ダンボールは別々に

### 10月からの一般ごみ収集日と資源の回収日

地区	種類	一般ごみの収集日		資源の回収日	
		燃えるごみの日	燃えないごみの日	缶とびんの日	紙と布の日
国分北	上今泉	月・水・金	第1・第3木	第1・第3火	第2・第4火
中央	国分南	月・水・金	第2・第4木	第1・第3火	第2・第4火
河上	原口	火・木・土	第1・第3金	第1・第3水	第2・第4水
中	新田	火・木・土	第2・第4金	第1・第3水	第2・第4水
大	谷台	月・水・金	第1・第3火	第1・第3木	第2・第4木
東	柏ヶ谷	月・水・金	第2・第4火	第1・第3木	第2・第4木
社	家	火・木・土	第1・第3水	第1・第3金	第2・第4金
中	河内	火・木・土	第2・第4水	第1・第3金	第2・第4金

※祝祭日は資源の回収とごみの収集は行いません。

# 今年の冬



### 周囲には大自然とレジャー施設

「えびな蓼科荘」は、八ヶ岳に登ります。リフトに乗ると、眼下に女神湖、白樺湖が広がります。四季を通じて自然にふれあうことができます。

蓼科牧場：「えびな蓼科荘」から徒歩十分のところにある蓼科牧場は、標高2,500m(0)のふもとにあります。六月から十月の間は大自然の中でホルスタイン(乳牛)と遊ぶことができます。しほりたてのおいしい牛乳を飲むこともできます。

白樺高原国際スキー場：冬は、蓼科牧場がスキー場に変身し、毎年多くのスキーヤーでぎわっています。

ゴンドラリフト(シャトルビーン)：蓼科牧場から六人乗りゴンドラリフトで、御泉水自然園まで標高差三百メートルを

# は「えびな蓼科荘」で

## 10月15日から受け付け開始

### 施設紹介

「えびな蓼科荘」は、敷地面積一万五千平方メートル、三階建て、延べ面積二千二百五十七平方メートルです。施設の内容は次のとおりです。

【一階部】  
六畳和室三室、八畳和室二室、食堂、管理入室があります。

【二階部】  
六畳和室三室、八畳和室一室、十畳和室四室、男女浴室があります。

【三階部】  
一階と二階を兼ね、定員は六十二人です。

### 利用の申し込み方法

施設利用の申し込みは、市内在住・在勤の方は利用日の三ヶ月前の同日から(ただし、市外の方は1ヶ月前の同日から)利用日の五日前までの間、三泊四日を限度として、広報広聴課で受け付けます。ただし、十二月二十五日から一月十五日までの利用受け付けは、「えびな蓼科荘」の利用開始日が十二月二十五日からのため、今回は特別として同日から一月十五日までの

### 料金の支払い方法

使用料(別表のとおり)は、申し込みと同時に利用者全員分を納入していただきますが、この中には食料金は含まれてお



② 蓼科牧場では、ホルスタイン(乳牛)にふれることも...

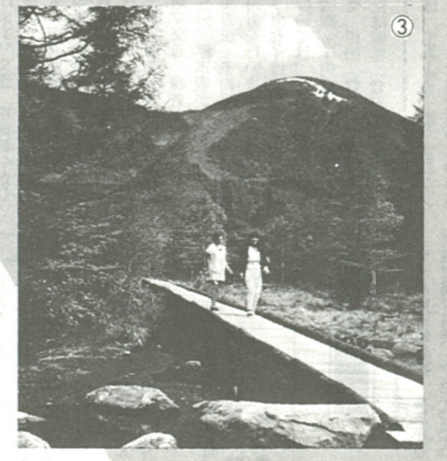
### 「えびな蓼科荘」への交通案内

☆車をご利用の方(所要時間 約3時間半)  
(中央自動車道) (ビーナスライン)  
海老名—相模湖インターチェンジ—蓼科インターチェンジ—えびな蓼科荘

☆電車、バスをご利用の方(所要時間 約4時間半)  
(中央線) (バス)  
海老名—八王子—茅野—蓼科牧場  
※茅野駅より、蓼科バスにて、東白樺湖下車乗り換え、JRバス(小諸行)、千曲バス(小諸行)にて蓼科牧場下車徒歩10分。



### 四季折々の見どころ



- 写真説明
- ①眺めの良いゴンドラリフトがある白樺高原国際スキー場
  - ②蓼科牧場では、ホルスタイン(乳牛)にふれることも...
  - ③バードウォッチングや森林浴が楽しめる御泉水自然園
  - ④幻想的な女神湖でボート遊びやフィッシングを



ゆったりとくつろげる浴室

### 「えびな蓼科荘」の使用料

利用区分	使用料		備考
	市内に住所又は勤務場所を有する者	その他の者	
宿泊料(1人1泊、食料は含まない)	大人(中学生以上) 2,500円	5,000円	午後4時から翌日午前10時までとする。乳幼児は、無料とする。
	小学生 1,500円	3,000円	
冬期加算料(1人1泊)	100円	200円	10月から翌年4月までの間とする。

※1人で1室を利用するときは、宿泊料に1,500円を加算する。





# フォトピックス



園児が花束を贈呈

当日は幼稚園児から小学生までの子供とその親など約四百人が集合し、飯ごうで約八百個のジャガイモをゆてた。台所で調理と勝負が激しかったが、薪の積み重ね方や火のつけ方が分からない母親たちが、サマー・キャンプで経験のある子供たちに教わる場面も見られ、「子供たちの頼もしい一面も発見できた楽しい一日でした」との声も。



みんなでゆてたジャガイモはおいしい!

## 千200人が出席

市文化会館で敬老のつどい

市内の七十五歳以上のお年寄りを招き長寿を祝う「敬老のつどい」が九月十四日、市文化会館で行われ、約千二百人が出席した。

式典では、出席者中、最長寿夫妻である伊波菊次郎・フデ夫妻(下今泉、95歳・88歳)らの紹介が行われ、市内の幼稚園児から花束が手渡された。

その後、出席者は漫談や民謡ショーを楽しんだが、会場内では他地区に住む友人と旧交を温める光景も見られた。

## ジャガイモで交流

親子ふれあい村に傾入

学校五日制実施の一環として、九月十二日、東柏ヶ谷近隣公園で柏ヶ谷地区の親子が一緒にジャガイモをゆてて、ゲームを楽しむ「親子ふれあい村」が行われた。

この催しは、「セム・アムド・セム」(小田島寛会長)が企画したもの。同会は子供と大人が対等の立場で交流を深めることを目的とし、柏ヶ谷地区の有志が三年前に結成された。

## サギが舞い降りた

100羽がエサ求め休耕田へ



あぜ道でひと休みするアマサギ

九月上旬から中旬にかけて、市庁舎東側の休耕田に百羽近いアマサギ(コウノトリ目サギ科)が舞い降り、道行く人たちの目を惹きました。

この休耕田は約二・八畧「花の里づくり事業」の一環として使用され、二年前から春にはレンゲなどが咲き乱れる憩いの場。アマサギは掘り返された土の中から現れた虫を捕食するため、飛来した。

日本野鳥の会神奈川支部の坂本堅五さん(今里、48歳)によると、百羽近いアマサギの群れは市内でも比較的珍しいとのこと。群れの中にはゴサギや夜光性のゴイサギなども混じり、食事の合い間には田んぼのあぜ道で仲良く羽を休める光景が見られた。

## モデルも自分自身

母親がファッションショー

九月十日、市庁舎四〇一会議室で行われた「第十七回市母親連絡協議会(伊藤藤江会長)会



モデルはやっぱり照れくさい

モデルを務めたお母さんたちも作品に注いだアイデアが周囲から絶賛され、うれしそうだった。

このショーでは、母親クラブが主催し、母親たちがファッションショーを開催した。

**海老名むかしむかし**

☎33・3838

電話で海老名の昔ばなしが聞けます。

9月18日～10月4日 第12話 田の草仁王

10月5日～10月19日 第13話 猫の踊り場

# 海老名むかしむかし

## 第287話 相模川の大水 その4 明治期の洪水

今回は明治のころの洪水、水、材木家具種々流る(注1)を、諸記録や古老の話などを基に、羅列してはいるが記述を追跡してみようとした。

慶応四年(明治元年・一八六八年)九月十八日、夜より大水で、新田村(座間市)土手切れ、川原口村床上式五寸上る。「大繩家流る(注1)」

明治二年九月十八日、「大風雨座間新田村土手百間(約100)切る(注1)」

当然、海老名耕地も満水になるほどの大水であったであろう。

同十七年九月十五日、「前九時頃より辰巳大風大荒し、所々家倒れ破損多し。相模川大水家流る(注1)」

「大暴風雨、相模川漲溢し、家屋の倒壊農作物の被害甚し(注2・3)」

明治二十二年九月十一日、「大風雨大洪水相模川平水より凡そ十五尺と云々、川筋堤防数カ所破壊、海老名耕地は「田大海の如し(注2)」

「大暴風雨、相模川漲溢被害多し(注3)」

同二十九年九月九日、「八日午後一時より降り出し大南風雨烈し、九日大南風烈し、熊鷹茶一袋持参して中新田へ水見舞に行く(注1)」

大水の程度は記していないが、水見舞いに行くほどであるから相当の出水であったであろう。

同三十一年九月六日、「雨度々夜に成て辰巳大風風雨、相模川大水河原口、中五十六カ所、海老名耕地満

上流諸村の堤防も亦欠潰せしを以て濁流滔々として通学区域全般に漲溢し、為に本校も床下一尺二寸の浸水を被るに至れり(翌二十五日の通学区域の状況として)「百一戸中浸水家屋百九戸、但流失破損及び人畜死傷なし」田畑共悉く浸水淤泥の沖積甚しく、当季の収穫皆無の見込なる個所夥からず(注4)」

「三日間降り続いた大水、河原口宗理寺裏の堤防が切れて床上浸水し、近所の人我が家に逃げてきた」と聞いている(明治40年生まれの中新田のE氏談)

「この頃は相模川も夏から秋にかけて大水が出ました。ある年には一年に三四回くらい水が入りました。また、床上に水が上るのも珍しくありませんでした。明治四十年の大水の時はお母様が避難したの時は、私のお家は土手の外にあったからです(注5)」

「上郷の外記河原」といふ広さ約四千平方メートルの田舎で、明治四十年生まれの下今泉のT氏の話である。

明治期の洪水は、この後にもまだ一、二例あるが、以上のような大水に遭遇した郷土の人たちは、よく自然の猛威と戦ってきたかと感嘆するばかりである。

(池田 武治)



かつて大洪水に見舞われた海老名耕地(昭和30年、勝瀬の佐々木藤雄氏撮影)

の南角にあり、「吉田屋」と称したのでこの水難に遭つたのである。

同四十年八月二十四日、「相模川大水、泥土を沖積する。この秋より翌年に涉りて堤防の大事あり(注3)」

「昨日の豪雨にて相模川増水一丈七尺五寸(＝厚木津に設置してある水量標による)。遂に午前八時堤防の欠陥五十間、一カ所三十間、一カ所其他小破損数カ所に及び且つ

「この時の洪水で門沢橋地区が孤立、これを見た本郷地区では振り飯を作り、青年団の協力を得て送り届けた」と聞いている(大正六年生まれの本郷のF氏談)

同四十年九月十八日、「昨日の豪雨にして河水位溢の為欠席児童多し、午前十時の頃より益々増水、校地付近も亦一帯の浸水と聞いている(注4)」

「この年の大水では舟を停つていたのが幸いした。舟を家の中まで漕ぎ込んでお前たちを乗せて逃れた。後日、いつまでも田んぼの水が引かないと思つたら、それはえこみだつた。稲は首だけ出していたので穂だけ刈り取つた。田を埋めた泥土を集めて造つた田島があららこちらにできた」と、祖父からよく聞かされた。

注1:金子重兵日記(綾瀬市)から抜粋

注2:吉田逸作日記(上今泉)

注3:海老名郷土年表(中新田)

注4:興業社事務所発行「郷土の昔ばなし」掲載の平井定吉(中新田)氏の話。